

2022(令和4年)

2月23日(水・祝) - 3月27日(日)

広重はいかにして
まだ見ぬ遥か彼方の
名所を描いたのか。

企画展

はるかかなたを思い描く
―六十余州名所図会から―



中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

毎週金曜日は観覧無料、フリーフライデー
(スポンサー)
(株)銀の森コーポレーション、
木曽路物産(株)、(株)サラダコスモ

企画展

はるかかなたを思い描く —六十余州名所図会から—

会 期 令和4年(2022)

2月23日(水・祝)―3月27日(日)

観覧料

大人・520円(420円)〔内は20名以上の団体料金
※18歳以下無料、障がい者手帳をお持ちの方と付き添い
の方1名は無料。〕

開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(ただし3月21日(月・祝)は除く)、2月24日
(木)、3月22日(火)

〈関連イベント〉

■学芸員による作品ガイド

日時・3月13日(日) 午前10時30分～(30分程度)

場所・展示室1(1F)

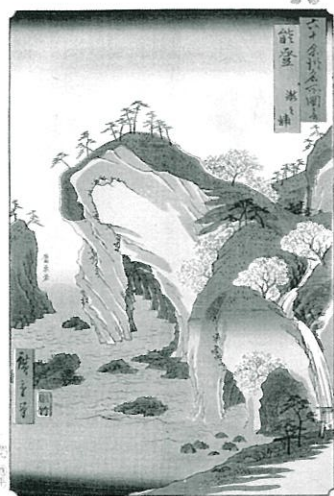
■解説ボランティア幽遊会による作品ガイド

日時・随時(要事前予約)

広重はいかにして、まだ見ぬ遙か彼方の
名所を描いたのか。

生涯にわたり日本全国の名所を描いた広重。実は、広重は必ずしも全ての場所を直接訪ねていたわけではなく、名所地誌、読本などの版本や他の絵師たちの名所絵を参照しながら錦絵制作に取り組みました。

本展でご紹介する広重晩年の大作「六十余州名所図会」には、五畿七道、68ヶ国の名所が描かれていますが、その多くの図で『山水奇観』(寛政11年/1779、享和2年/1802)を参照していることが指摘されています。『山水奇観』は、備前国児島郡上山坂村(現・岡山県玉野市)に生まれ、上方で活躍した絵師・淵上旭江が実際に諸国を巡って描きため刊行した風景絵本です。その他にも『巖島図会』や『尾張名所図会』などの名所地誌や『北斎漫画』のような絵手本など、さまざまな作品から材を取っていることが分かっています。では広重は先行作品からどのような情報を抽出して、実際に見ていない場所の名所絵を生み出したのでしょうか。広重が思い描いた名所風景をお楽しみください。



歌川広重
「六十余州名所図会 能登 滝之浦」

〈図版〉

右：歌川広重「六十余州名所図会 能登 滝之浦」

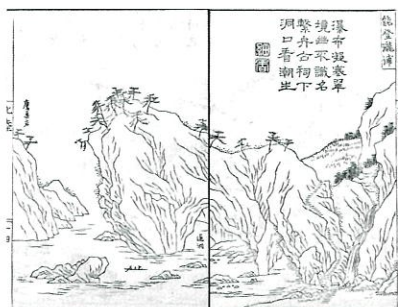
大判錦絵 嘉永6年(1853)9月

左：淵上旭江『山水奇観 続編 北陸奇勝』「能登滝浦」

版本 享和2年(1802)

共に当館蔵(田中コレクション)

現・石川県羽咋郡志賀町にある一帯の海岸線を能登金剛といい、その代表的な景勝地である巖門付近が描かれています。本図は『山水奇観 続編 北陸奇勝』「能登滝浦」(左図)を参照したとされます。せり出した巖門と付近を流れる不動滝を縦構図の同一画面上に収めるため、『山水奇観』より視点を右にずらし、見上げるように描いています。それにより、巖門に開けられた貫通洞門を正面から見る構図となり、奥行きを生み出しています。また、描き加えられた桜樹が、厳しい自然景観に春の華やかさを添えています。



淵上旭江
『山水奇観 続編 北陸奇勝』
「能登滝浦」

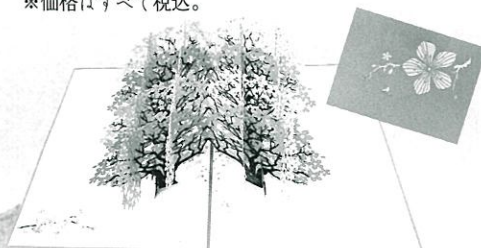
Museum Shop News

ミュージアムショップからのお知らせ
春爛漫！アートワークスの花グッズ

春の訪れが待ち遠しい今日の頃。ミュージアムショップでは花をモチーフとしたグッズを入荷しました。桜並木が飛び出すポップアップカードは、贈り物やディスプレイにうってつけです。浮世絵に描かれたあやめ、モネによる睡蓮、ゴッホの描いたアイリスなど、さまざまな花を楽しめるステッカーシートもご用意しています。本格的な春の到来より一足早く、暮らしに彩りを添える花のグッズを取り入れてみませんか。



上：ステッカーシート
左から/モネ、浮世絵、ゴッホ 各880円
下：ポップアップカード 桜並木(封筒入) 1,320円
※価格はすべて税込。



中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1
TEL (0573) 20-0522 FAX (0573) 25-0322
<https://hiroshige-ena.jp>
ウェブミュージアムショップはこちら！
<https://enahiroshigemuseum.stores.jp>

毎週金曜日は観覧無料、フリーフライデー
(スポンサー)
(株)銀の森コーポレーション、
木曾路物産(株)、(株)サラダコスモ

ウェブミュージアムショップ 美術館ホームページ

